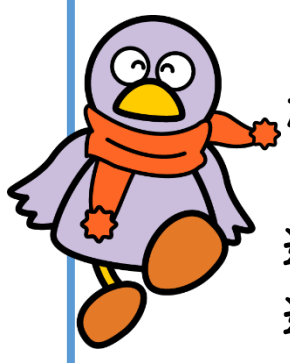
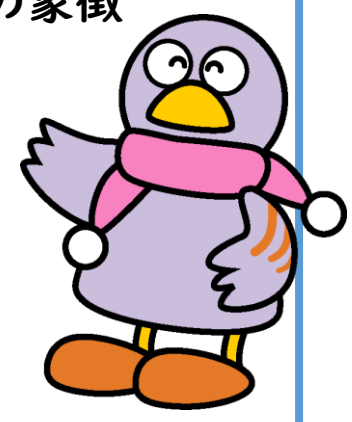
進路だより

浦和特別支援学校
進路指導部
令和8年1月20日

今年は午年！



新しい年を迎え、冬休み明けの子どもたちも元気な姿で登校し、晴れやかなスタートを切れたのではないでしょうか。今年は午年。昔から「駆ける」「勢いよく進む」ことの象徴とされ、子どもたちの将来への歩みを温かく後押ししてくれるようにも感じます。進路に向けた取り組みは、時にゆっくりと、時に力強く、一人ひとりのペースで進んでいく大切な道のりです。本校でも、日々の学習や活動を通して、興味や得意なことを見つけ、自信を育てる機会を大切にしていきたいと思います。午年の勢いにあやかりながら、子どもたちが未来へと駆け出していける一年になりますよう、保護者の皆様とともに温かく見守っていきたいと思います。



中学部進路懇談会

中学部進路懇談会は、元々11月末に予定されていたのですが、感染症拡大予防により1月13日に延期されていました。この懇談会は小学部と中学部で隔年で行っているものです。当日は約30名の保護者様に御来校いただきました。内容は高等部卒業後の進路先決定までの流れや学校卒業後の生活とそれに関わって、中学部段階で大切にしてほしいこと等についてでした。会の中でたくさんの質問もいただきましたので、ここで一部紹介したいと思います。

〇進路決定に向けて保護者はどのくらい仕事を休んだり、都合をつける必要があるのか？

→年間の進路に関わる行事（懇談会等）については、毎年４月の進路だよりでお伝えします。また、現場実習１回につき、事前の打ち合わせ１回、実習の初日挨拶（約30分～1時間）、実習の振り返りを行う反省会（約１時間）の3回は御協力をお願いします。

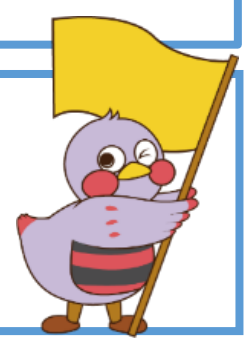
〇卒業までに進路が決まらない生徒がいた場合どうするのか？

→高3は進路先が決まるまで、繰り返し現場実習を行います。在宅を希望したり、卒業後にゆっくり考えたい等、様々な事情で卒業時点で進路先が決まらないケースはあります。例えば、様々な理由で、学校に通うことがなかなか難しい方でも、進路先の雰囲気であったり、賃金等を励みに卒業後にマッチングがうまくいくケースもあります。

〇事業所の見学の際に生徒を連れて行った方が良いか？見通しをもたせることが難しかったり、本人が事業所に対して嫌なインパクトをもってしまった時のことが心配です。

→最初は保護者のみの見学で全然問題ありません。１度目の見学で良さそうだったら、２回目に本人を連れて行っても良いと思います。本人が事業所を訪れた時に、実際にネガティブな反応を示すことはあり得ます。現場実習が初めての訪問で、その時に拒否が見られると貴重な機会が無駄になってしまうので、事前の見学をお願いしています。小学部中学部段階ではその限りではありません。

進路に関することにつきましては、連絡帳を通してや担当に直接電話でも結構ですので、お気軽に進路担当までお問い合わせください。

（２月）進路関係の予定について

２月１６日（月）～２７日（金）	高１高２進路面談
２月１８日（水）	高３進路懇談会（詳細は案内を御確認ください）